



2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年8月7日

上場会社名 株式会社ソケット 上場取引所 東
コード番号 3634 URL <https://www.sockets.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 浦部 浩司
問合せ先責任者 (役職名) コーポレートマネジメント室 室長 (氏名) 茂田 輝子 TEL 03-5785-5518
配当支払開始予定日 -

決算補足説明資料作成の有無：有「2026年3月期第1四半期決算説明資料」を同日付で公表しております。

決算説明会開催の有無：有（機関投資家・証券アナリスト・個人投資家向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第1四半期の業績（2025年4月1日～2025年6月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	261	12.5	△3	—	△3	—	0	—
2025年3月期第1四半期	232	△4.7	△46	—	△45	—	△37	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	0.36	—
2025年3月期第1四半期	△15.13	—

(注) 2025年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。また、2026年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式は存在するものの希薄化効果を有していないため、記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第1四半期	800	541	64.3
2025年3月期	814	552	63.9

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 514百万円 2025年3月期 520百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	3.00	3.00
2026年3月期	—	—	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	0.00	—	3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	530	9.6	1	—	2	—	5	—	2.22
通期	1,100	5.8	15	—	15	—	11	—	4.59

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

詳細につきましては、2025年8月7日公表の「2026年3月期第2四半期累計期間の業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期1Q	2,477,400株	2025年3月期	2,477,400株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	24,685株	2025年3月期	24,685株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期1Q	2,452,715株	2025年3月期1Q	2,452,717株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・当資料に記載している業績見通し等の将来に関する予測は、本資料の発表日現在において当社が入手可能な情報及び、合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想の利用については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・決算補足説明資料はT D n e tで同日開示しています。
- ・当社は2025年8月8日（金）に機関投資家・証券アナリスト・個人投資家向け決算説明会を開催する予定です。この決算説明会で配布する資料については、開催後速やかに当社ウェブサイトで掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況.....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況.....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	6
(セグメント情報等の注記)	6

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、米国発の関税問題やウクライナや中東における戦争などが影響する世界経済の不安定さ、国内外における物価上昇、地域格差の広がり、先行きの見えない地球規模でのエネルギー・環境問題など引き続き複雑かつ不透明な状況にあります。国内の景況感においては、旺盛なインバウンド需要など一部明るい面はあるものの、個人消費は依然として伸び悩み、全体としては減退はないものの横ばい感がある状況にありました。

ますます多様性や複雑性が増す現在の社会において、ひとりひとりがより自分らしく生き心身ともにウェルビーイングであることの重要性はより強まる時代に進んでおります。

このような心身ともにウェルビーイングが問われる時代において、自分の好きをエネルギーに活動する、いわゆる推し活と言われる行動様式は、静かに、急速に広まっております。

一方では生成AIをはじめとしたAI技術の進展は凄まじく、AIと人間の関係性においては、今後ますます大きな課題と可能性の相反に向き合う状況が進むことが予想され、そしてその影響はエンターテインメントというクリエイティブな領域にも今後ますます及んでくることとなります。

当社は、通常のAIでは捉えきれない人間の感性や感情をデータで理解する独自の感性AIを開発し、エンターテインメントとAIという相反し得る関係性をより良いものにするために役に立ちえます。

事業としてエンターテインメント×感性マーケティングという分野を開拓し、独自の感性AIを活用し人それぞれの“ありたい自分”を見つけて過ごす価値ある時間（Quality of Life）の増加に貢献する事業活動を行っております。具体的には、インターネットにおける音楽、映像サービスや広告サービスにおけるレコメンドや検索に活用するデータやシステムの提供を行っております。

当社独自の感性データ技術は、これらのエンターテインメントデータサービスや広告サービスを通じて生活者視点でいえば、自分の“好き”や“推し”に出会う、自分らしく生きる、社会と共に生きる、自らのライフスタイルをみつけてより良く暮らす、そうした欲求を繋ぎ広げることが可能とする技術です。企業視点から見ても、エンターテインメント分野においては、お気に入りの楽曲、アーティスト、アニメ、ドラマ、映画、俳優、クリエイターなどに出会う機会の増加や音楽、視聴経験の向上への貢献、広告サービスにおける感性マーケティング分野においては、短期的ではない中期的な視点による企業が持つそれぞれのフィロソフィー、カルチャー、ストーリー、こだわり、パーパスなどを丁寧に訴求することで、自社の感性価値、情緒的価値をきっかけに企業と生活者が共感で繋がるより深いコミュニケーション活動への貢献が可能となってきました。

当社が培ったエンターテインメント分野でのデータベースやデータマネジメント技術を活用し感性マーケティング分野に繋げることで、多くのアーティスト、クリエイターの才能を発見し、それぞれのストーリーや世界観を可視化し、結果として新たなコンテンツである楽曲、アニメ、ドラマ、小説、コミック、キャラクターなどのIP（Intellectual Property：知的財産）の発掘から制作、流通、プロモーション、コラボレーション、二次展開までのサポートを行うことを可能とします。創業より25年培ったエンターテインメント分野でのデータ関連技術を活用し、当社は今後のIP立国日本に貢献してまいります。

当社の強みは、感性メタデータを活用した独自の感性AIの開発と音楽、映像を中心としたエンターテインメント分野を通じて人間が持つ感性や感情を体系的、網羅的、詳細にデータベース化を行い、国内最大級の感性データベースであるメディアサービスデータベース（以下「MSDB」といいます）として開発、運用しているところにあります。それらのデータ・技術開発を通じて、人間の感性と感情に寄り添う「セレンディピティ＝偶然の幸せな出会い」を生む独自のデータサービスを可能とします。

これらのサービスについては、ユーザーベースをもつパートナー企業への技術ライセンス提供として、KDDI株式会社、株式会社レコチョクを通じた株式会社NTTドコモ、LINEヤフー株式会社、楽天グループ株式会社、

LINE MUSIC株式会社、HJホールディングス株式会社（サービス名「Hulu」）、株式会社フジテレビジョン（サービス名「FOD」）、株式会社集英社、株式会社世界文化ホールディングス、株式会社CEメディアハウス、株式会社ハースト婦人画報社、株式会社講談社などのサービスにて利用されております。

当第1四半期累計期間において独自のエンターテインメントデータサービスや感性広告サービスが順調に伸長する一方で、積極的な先行投資を継続しつつも、生産性の向上やコストの最適化を推し進めました。それら事業活動の結果として、当第1四半期累計期間の経営成績は、売上高261,640千円（前年同期比112.5%）、営業損失3,898千円（前年同期は46,076千円の営業損失）、経常損失3,695千円（前年同期は45,997千円の経常損失）、四半期純利益893千円（前年同期は37,116千円の四半期純損失）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第1四半期会計期間末における総資産は、800,655千円（前事業年度末比14,072千円減）となりました。流動資産につきましては645,309千円（同51,439千円減）となり、増減の主な要因としましては、現金及び預金の減少（同13,211千円減）、売掛金の減少（同46,444千円減）などがあつたことによります。固定資産につきま

しては155,346千円(同37,367千円増)となりました。これは主に、本社移転に伴い有形固定資産において建物および工具器具備品が増加したことによるものであります。

負債は、258,801千円(同3,680千円減)となりました。増減の主な要因としましては、買掛金の減少(同5,322千円減)、未払金の増加(同16,273千円増)、賞与支給による賞与引当金の減少(同21,249千円減)などがあったことによります。

以上の結果、純資産は、541,854千円(同10,391千円減)となり、自己資本比率は、前事業年度末の63.9%から64.3%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期第1四半期累計期間(2025年4月1日～2025年6月30日)における売上高は、主力事業であるエンターテインメントデータサービスが当初の予想を上回り推移しております。

利益面におきましては、売上高の増加に加え、従来通り先行投資を継続しつつも生産性の向上やコストコントロールに努めたことにより、営業利益においても当初予想を上回る見込みとなりました。このような業績動向を鑑み、2025年5月12日に公表いたしました2026年3月期第2四半期累計期間の業績予想を上方修正しております。なお、通期の業績予想につきましては、前回予想を修正しておりません。業績予想に変更が生じた場合には速やかに公表いたします。

詳細につきましては、2025年8月7日公表の「2026年3月期第2四半期累計期間の業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	530	9.6	1	—	2	—	5	—	2.22
通期	1,100	5.8	15	—	15	—	11	—	4.59

(注) %表示は対前年増減比になります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	464,965	451,753
売掛金	206,856	160,411
その他	24,927	33,144
流動資産合計	696,749	645,309
固定資産		
有形固定資産	0	33,837
無形固定資産		
ソフトウェア	0	0
その他	0	2,883
無形固定資産合計	0	2,883
投資その他の資産		
敷金及び保証金	105,689	105,575
その他	12,290	13,050
投資その他の資産合計	117,979	118,625
固定資産合計	117,979	155,346
資産合計	814,728	800,655
負債の部		
流動負債		
買掛金	37,458	32,135
未払金	20,007	36,280
未払法人税等	4,770	2,267
賞与引当金	41,217	19,967
その他	39,227	44,944
流動負債合計	142,681	135,596
固定負債		
退職給付引当金	119,800	123,204
固定負債合計	119,800	123,204
負債合計	262,482	258,801
純資産の部		
株主資本		
資本金	505,737	505,737
資本剰余金		
資本準備金	134,137	735
その他資本剰余金	52,306	39,217
資本剰余金合計	186,443	39,952
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	△139,132	893
利益剰余金合計	△139,132	893
自己株式	△32,099	△32,099
株主資本合計	520,949	514,483
新株予約権	31,297	27,370
純資産合計	552,246	541,854
負債純資産合計	814,728	800,655

(2) 四半期損益計算書

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	232,538	261,640
売上原価	133,440	144,544
売上総利益	99,097	117,096
販売費及び一般管理費	145,174	120,994
営業損失(△)	△46,076	△3,898
営業外収益		
受取利息	—	13
受取手数料	14	13
商標権使用料	30	30
未払配当金除斥益	29	0
物品売却益	—	163
その他	5	0
営業外収益合計	79	220
営業外費用		
雑損失	—	18
営業外費用合計	—	18
経常損失(△)	△45,997	△3,695
特別利益		
新株予約権戻入益	9,013	4,721
特別利益合計	9,013	4,721
特別損失		
固定資産除却損	—	0
特別損失合計	—	0
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△36,984	1,025
法人税、住民税及び事業税	132	132
法人税等合計	132	132
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△37,116	893

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2025年6月20日開催の第25回定時株主総会の決議に基づき、当第1四半期会計期間において資本準備金の額134,137千円を減少し、減少した額の全額をその他資本剰余金に振り替えるとともに、その他資本剰余金のうち139,132千円を取り崩し、繰越利益剰余金に振り替えることにより、欠損の填補に充当しております。この結果、当第1四半期会計期間末において、資本準備金は735千円となっております。

なお、剰余金の配当及び準備金の積み立てにより、その他資本剰余金が8,093千円減少、資本準備金が735千円増加しております。

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書を作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る減価償却費含む。）は次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	一千円	309千円

(セグメント情報等の注記)

当社は、モバイル端末向けアプリケーション開発、データベース構築及びそれらを組み合わせたサービスの開発と提供を行う単一セグメントであるため、記載を省略しております。